

今後の幼児教育の教育課程、指導、評価の在り方に関する有識者検討会（第4回）

幼児教育と小学校教育との接続を指向し、
幼児教育の可視化・言語化を進めた
カリキュラム研究の取組から見えてきたこと

令和6年3月11日（月）

神戸大学附属幼稚園 副園長 田中孝尚

tanaka4@kobe-u.ac.jp

文部科学省 研究開発学校としての取組より

平成12年度より、一貫して、事実に基づいた子どもの学びを基にしたカリキュラム開発を継続

現在に至るまで

幼児教育現場において、子どもの学びを見取る観点としても、ねらいの観点としても使いやすく、小学校の教師にとっても理解しやすい詳細な資質・能力の観点を整理すべく、実践記録を集積し、検討を重ねている。

【平成29～31年度】

文部科学省 研究開発学校
幼稚園と小学校の円滑な接続に資する、子どもの学びに着目した、幼児教育と小学校教育9年間を一体としてとらえた教育課程の大綱となる「**初等教育要領**」の充実

9年間を一体として捉えた教育課程の大綱となる「初等教育要領」の開発と充実を進め、「資質・能力カリキュラム」を提案（『新神戸大学附属幼稚園プラン』）

※本プランは、資質・能力のフィルターを通して、「10視点カリキュラム」を見直したものであり、詳細な資質・能力の観点を有するカリキュラムである。なお、開発・充実した本園の教育課程及び指導計画は、実践データとしての実践記録及びドキュメンテーション等を根拠としたカリキュラム・マネジメントの過程までも公開。カリキュラム・マネジメントを継続し、保育者の資質向上と保護者の幼児教育への理解促進を同時に実現する仕組みをあわせて提案。

【平成25～28年度】

文部科学省 研究開発学校
幼稚園と小学校の円滑な接続に資する、子どもの学びに着目した、幼児教育と小学校教育9年間を一体としてとらえた教育課程の大綱となる「**初等教育要領**」の開発

10の方向と40の道筋で幼児教育を可視化し、幼小をつなぐ幼児期のカリキュラムを提案（『神戸大学附属幼稚園プラン』）

※10視点により幼児期の教育においてめざす方向を示し、40下位項目という詳細な観点毎に、入園から修了までの3年間の子どもの期待する学びの道筋を、ねらいの道筋として示し、「10視点カリキュラム」の取組を深める。日本の幼児教育現場において実現可能な様々なドキュメンテーションの取組も提案。

【平成22～24年度】

文部科学省 研究開発学校
幼稚園教育と小学校教育の接続期における円滑な接続のための**新分野創設**に向けたカリキュラムと指導方法等の研究開発

【平成12～14年度】

文部科学省 研究開発学校
社会を創造する知性・人間性を育むことをめざした新しい教育システムの開発

幼稚園入園から中学校卒業までの子どもの学びの過程を整理し「学びの一覧表」を作成

※「学びの一覧表」とは、本校園の幼小中の全教師が、日々の実践から「子どもの事実」、「解釈」、「学び」を「学びのカード」に書き綴り、3歳（幼稚園年少児）から14歳（中学校3年生）までの総数約6,000に及ぶ「学びのカード」を分類・整理し、ボトムアップで一覧表にまとめていったものであり、本校園における子どもの学びを体系化したもの。

【平成5～7年度】

文部省 研究開発学校
学習主体としての子どもを支援する12か年の教育課程の開発
～総合・探求学習を核にした幼稚園・小学校・中学校の連携研究の試み～

文部科学省により示されている資質・能力

社会的資質・能力

人格形成の基礎となる資質・能力

学びに向かう力・人間性等

固有的資質・能力

知性につながる資質・能力

知識・技能の基礎

固有的資質・能力

知性につながる資質・能力

汎用的資質・能力

思考力

「社会的資質・能力」と「学びに向かう力、人間性等」
 「固有的資質・能力」と「知識や技能の基礎」
 「汎用的資質・能力」と「思考力・判断力・表現力等の基礎」

上記はそれぞれ親和性が高い資質・能力であると考えられる。一方で、「表現力」については、本園が見出した資質・能力では「固有的資質・能力」の一つと位置付けているのに対し、文部科学省より示されている資質・能力では「思考力・判断力等」と同じまとまりに位置付けられているなど、相違点も見られる。このような共通点や相違点を明確にししながら、5領域に替わる資質・能力の観点からのねらいの枠組みを提案していきたいと考えている。

学びを見取る観点、ねらいの観点として使いやすく、小学校の教師にとっても理解しやすい詳細な資質・能力の観点を見出したい

思考力・判断力・表現力の基礎

| 資質・能力の大きなまとまり定義 | 【資質・能力のまとまり】定義 | 資質・能力 | 資質・能力の定義 |
|-----------------------------|--|---------------|--|
| 社会的資質・能力 人格形成の基礎となる資質・能力 | 【自己の生き方】 様々なかかわり合いの中で、自分自身で決めるよい生き方を目指そうとする | 自ら決める・選ぶ | 興味・関心をもつたり、目的や目標を定めたりして、その実現に向けて努力をもち、やり遂げようとする |
| | | 自分に満足する | 自分の成長を自覚し、自らの価値に気付く |
| | | 気持ちをコントロールする | よりよい方向に向けて、自分の気持ちに折り合いをつけようとする |
| | | よりよい自分に向かう | よりよい方向に向けて、した方がよいと思うことをしようとする |
| 社会的資質・能力 人格形成の基礎となる資質・能力 | 【他者との関わり】 自分自身だけでなく、他者の思いや考えに気付き、よりよい関係をつくろうとする | 他人とのかかわり | 他人とのかかわる心地よさを感じたり、互いに感謝してつなぐよさを大切にしようとする |
| | | 自分のことを伝える | 相手に分かるように、自分の思いや考えを行動や言葉で伝えようとする |
| | | 他者のことを考えて行動する | 他人に寄り添い、相手にとってよいと思うことをしようとする |
| | | 人とのことをすすめる | 人と共通の目的や目標に向かって、自分にできることをしようしたり、見直しをもって必要なことを決めたり、互いの役割を認識しながら責任を果たそうとする |

| 資質・能力 | 資質・能力 | 資質・能力の定義 |
|--------------------------|--|--|
| 固有的資質・能力 知性につながる資質・能力 | 体の健康を保つ | 健康の保持・増進に関心を持ち、必要なことを考え、自分ができることをしようとする |
| | 身を守る | 自分の状態や周囲の状況に気付き、安全について考え行動しようとする |
| | 身体を操作する | 運動の特性に応じた身体の使い方をしようとする |
| | 【人と自然とのあり方をつまむ】 豊かな自然体験を通して、自然環境の美しさや不思議さを感じ、理解を深める | 空や雲、土、天体など、自然環境の美しさや不思議さに触れる中で、自然環境の美しさや不思議さを感じ、理解を深める |
| 固有的資質・能力 知性につながる資質・能力 | 生き物・いのちをつまむ | 生き物の美しさや不思議さに触れる中で、生命に対する理解を深める |
| | 事物・現象をとらえる | 科学的に分析・思考しながら、性質や特徴を見出し、ものやこと同士の関係性をとらえたりする |
| | 造形に表す | 自分の思いや感情を、形や色、音などを使って表現しようとする |
| | 音楽に表す | 音の響き、リズム、テンポやメロディーのよさを感じたり、それらを使って表現しようとする |
| 固有的資質・能力 知性につながる資質・能力 | 文芸に表す | 話の展開や内容、語や役などの設定、言葉のよさを感じたり、それらを使って表現しようとする |
| | 身体の動きに表す | 動作や表情、声の調子などのよさを感じたり、それらを使って表現しようとする |
| | 演出に表す | 配役や場とのとり方、プログラムの順序などのよさを感じたり、表現方法を考えたり、それらを使って表現しようとする |
| | 語彙・語句を活用する | 語彙・語句を豊富に獲得し、活用しようとする |
| 固有的資質・能力 知性につながる資質・能力 | 文章の構成を整える | 文章の構成を考えて、整えようとする |
| | 形をとらえる | 図形を対象とした思考を通して、身の回りの事象を分析的に判断しようとする |
| | 数・量をとらえる | 数・量を対象とした思考を通して、身の回りの事象を分析的に判断しようとする |
| | 空間をとらえる | 場を対象とした思考を通して、身の回りの事象を分析的に判断しようとする |
| 固有的資質・能力 知性につながる資質・能力 | 食をつまむ | 食へることの楽しさを感じたり、様々な食文化について知り、取り入れたりする |
| | 道具をあやつる | 目的に合った物を選び、適切に使う |
| | 住空間を整える | 快適で心地よい生活空間を知り、整える |
| | 財を活用する | 売買の仕組みやサービスについて知り、お金を適切に扱う |
| 固有的資質・能力 知性につながる資質・能力 | 多様な文化を尊重する | 自国の文化や他国の文化のよさや互いの文化の違いを知り、認めようとする |
| | 施設や働く人とのつながりをもつ | 施設や働く人の役割を知り、自分のかかわり方を考える |
| | 資源の活用をつまむ | 限りあるものの適切な使い方や使う量を考え、大切に扱う |
| | 過去とのつながりをとらえる | 社会や文化の発展を歴史の流れとのかかりでとらえる |
| 固有的資質・能力 知性につながる資質・能力 | 土地の特色をとらえる | 日本や世界の地域の諸事象を位置や空間的な広がりとのかかわりでとらえる |
| | 比較する | 対象と視点を明確にし、差異や共通点を見つけ出す |
| | 関連付ける | 対象と視点を明確にし、その間にあるつながりを見つけ出す |
| | 総合する | 比較したり関連付けたりしたことをもとに、考えをまとめる |
| 汎用的資質・能力 思考力 | 再構成する | 自分の知識や考えを、より妥当性の高いものに更新する |
| | 推論する | 比較・関連付けして得られた明確な根拠をもとに、何らかの考えにいたる |
| | 論点を抽出する | 話の中心になるところを探り、目的に応じて絞り込み、確定する |
| | 批判的に考える | 思考・判断に必要な情報の確かさを疑う |
| 汎用的資質・能力 思考力 | 自分を客観的に把握する | 自分のことについて自分自身が気付く |
| | 問題を認識する | ある目的を達成するための思いを生む |
| | 豊かに発想し、追求の手立てを構想する | ある目的を達成するための方法を直感的・論理的に考え、最適な考えを選ぶ |
| | 問題を見出し、解決方法を選出し、実行する力 | 実行をもとに、目的が達成されたかどうかその過程が適切であったかどうか |

神戸大学附属幼稚園の幼小を接続する資質・能力カリキュラムは、各地の市町単位でも園単位でも、教育研究の充実、教員の資質向上に向けて様々な形で活用されている

- ① 事実を基に捉えた子どもの学びを根拠とする詳細な資質・能力の観点
- ② 保育を構造的に思考し、子どもの資質・能力の発揮、伸長を自覚的に支える保育力を醸成する指導案フォーマット
- ③ 遊びや生活の中の子どもの学びの過程を可視化し、子どもと保育者、保護者間で子どもの学びの過程を共有するドキュメンテーションの様々な試み
- ④ 子どもが互いに影響を及ぼし合いながら学びに至る過程を分析的に捉え、保育者の資質向上及びカリキュラム改善に資する実践記録フォーマット
- ⑤ 遊びや生活をまとまりとして捉える長期指導計画
- ⑥ 子どもと共に教師も学び合う幼小合同学習の取組 など

【兵庫県教育委員会 幼小の円滑な接続推進事業（令和2年まで）、幼児期と児童期の円滑な接続推進事業（令和3年度から）】 平成30年度 三木市立三樹幼稚園、令和3・4年度 播磨町立播磨西幼稚園、令和3・4年度 赤穂市立尾崎幼稚園

【高砂市教育委員会、高砂市幼児保育課研修会】 平成30年度から現在に至る

【神戸市子ども家庭局幼保事業課】 平成30年度から現在に至る 公立保育所保育士研修

【新温泉町認定こども園職員研修】 平成30年度から現在に至る

【川西市教育委員会】 令和元～3年度 川西市幼児保育研究部会、令和元年度から幼小接続研修など

【尼崎市幼稚園教育研究会】 令和2～5年度 尼崎市立幼稚園全9園（尼崎市立塚口幼稚園、尼崎市立園和北幼稚園、尼崎市立園田幼稚園、尼崎市立武庫幼稚園、尼崎市立竹谷幼稚園、尼崎市立大島幼稚園、尼崎市立小園幼稚園、尼崎市立長洲幼稚園、尼崎市立立花幼稚園）

【朝来市教育委員会事務局こども育成課幼児教育研修会（朝来市教育研修所指定研究）】 令和3・4年度 朝来市立生野こども園、令和4・5年度 朝来市立大蔵こども園、令和5・6年度 朝来市立糸井こども園

【その他】 赤穂市、相生市、たつの市、宍粟市、姫路市、加西市、加古川市、播磨町、明石市、神戸市、三木市、川西市、各地の民間園など

平成14年度から実施している「参加型研修会」

幼児教育を考える研究会（神戸大学附属幼稚園）

- 9:10～9:30 研究会の趣旨説明
- 9:30～11:30 保育参観及び記録
- 11:30～12:10 「学びのカード」記入
- 13:10～14:45 グループ協議
- 15:00～15:30 全大会
- 15:30～16:30 講話

令和5年度 幼児教育を考える研究会
令和5年度 全国幼児教育研究協会 兵庫支部研修会

保育指導案

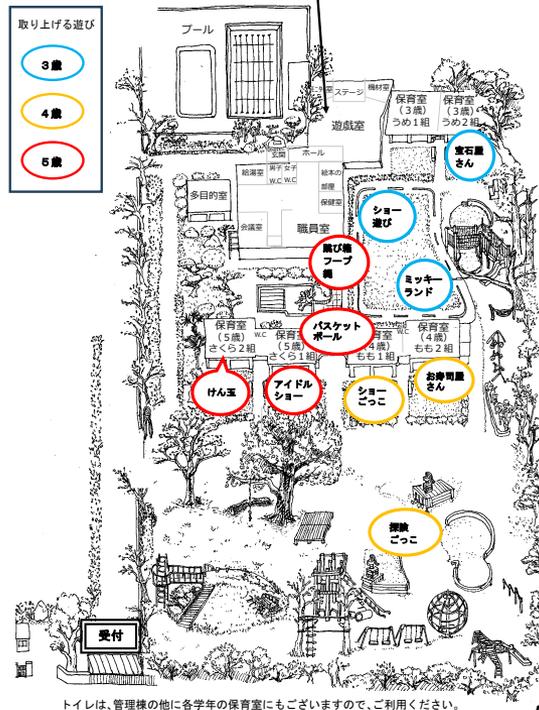
下と右図に示している『取り上げる遊び』の中から、
1つの遊びを選んで『学びのカード』をお書きください。

| クラス（背番号色）・掲載ページ | 取り上げる遊び |
|--|---|
| 3歳児うめ1組（背番号 青1～20） …1～3ページ うめ2組（背番号 青21～39） …4～6ページ | ○ショーあそび ○宝石屋さん ○ミッキークラウド |
| 4歳児もも1組（背番号 黄1～20） …7～9ページ もも2組（背番号 黄21～39） …10～12ページ | ○ショーごっこ ○探検ごっこ ○お寿司屋さん |
| 5歳児さくら1組（背番号 赤1～19） さくら2組（背番号 赤21～39） …13～16ページ *遊びや生活のまとまりとしての計画「令和5年度5歳児発表会」もご参照ください。 | ○バスケットボール ○アイドルショー ○けん玉 ○跳び箱・フープ・縄 |

参観にあたって

- ☆ 園内では、参加証を必ず身に付けてください。
- ☆ 個人情報保護の観点から、保育中の撮影、子どもの名前や顔など個人を特定できる情報の撮影はご遠慮ください。また、学びのカードの取り扱いにはくれぐれもご注意ください。
- ☆ 子ども達の遊びの動線にご配慮いただき、保育室の入り口やテラス、水道前などに立ちふさがらないようにしてください。
- ☆ 意図をもって保育をしていますので、子ども達や教師に話しかけないでください。

取り上げる遊び・場所



トイレは、管理棟の他に各学年の保育室にもございますので、ご利用ください。

令和5年度 幼児教育を考える研究会
令和5年度 全国幼児教育研究協会 兵庫支部研修会
今年度テーマ
～資質・能力の発揮、伸ばすを変えるために～
令和6年1月27日
神戸大学附属幼稚園

本研究会は、子どもの事象に基づいて語り合う参加型研究会です。参観者がとらえた印象ではなく、子どもの事象と事象の観照に基づいて、語り合います。
子どもは遊びや生活を通して、様々なことを学んでいます。保育参観を通して、子どもがどんな資質・能力を発揮、伸ばしているかを、本校園で見出している資質・能力を観点に当てて「学びのカード」に書き記してください。その際、思い込みにとらわれないように、子どもの事象と事象の観照を分けて見てください。この『学びのカード』を基に、グループ協議で、遊びの中の学びについて語り合います。
参観の際には、子どもの姿を行動・発言だけでなく、表情・しぐさ・視線などの細かな点に注目して記録しましょう。また、学びのカードには教師の援助や環境の構成からとらえた教師の意図についても記録しましょう。
☆事象とは、解釈を入れないありのままの子どもや教師の発言・行動・表情・しぐさ・視線などのことです。保育を見ていない人にも伝わるように書きましょう。
☆解釈とは、事象からとらえた子どもの内面などから読み取られた教師の意図のことです。
*取り上げる遊びについて
*『学びのカード』

平成28年度まで：10視点カリキュラム

平成29年度：幼児期の終わりまでに育て
ほしい姿（10の姿）

平成30年度から：資質・能力カリキュラム

詳細な観点を活用し、事実を基に遊びや生活の中の豊かな子どもの学びを捉える。

総合的に指導しようとするれば、
様々な観点から学びを捉えられる
ことが不可欠であり、様々な観点
から学びを捉えるためには、詳細
な観点があることが有効

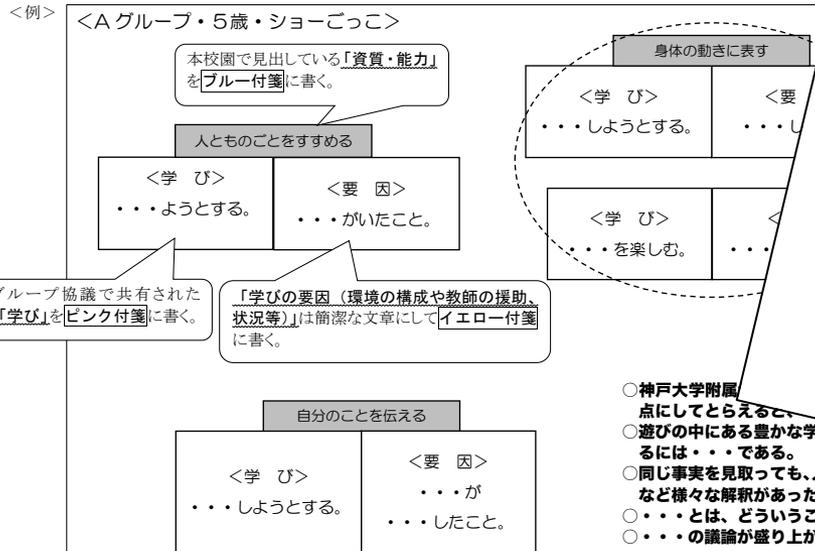
幼児教育を考える研究会（神戸大学附属幼稚園）

- 9:10~ 9:30 研究会の趣旨説明
- 9:30~11:30 保育参観及び記録
- 11:30~12:10 「学びのカード」記入
- 13:10~14:45 **グループ協議**
- 15:00~15:30 全大会
- 15:30~16:30 講話

グループ協議の方法も提示し、思い込みや先入観で保育を語らず、事実に基づいた子どもの学びをもとにカリキュラムを改善する知見を見出し、カリキュラムを改善する神戸大学附属幼稚園のカリキュラム・マネジメントの一連の仕組みを体験する機会を通じて、参加者が共に学び合うことを大事に実施している。

グループ協議用紙について

各グループで協議された遊びの中の「学び」や「学びの要因」について、また、協議の話題を、皆さんで共有し、模造紙や付箋を例のようにお使いください。



- 神戸大学附属点にしてとらえる。
- 遊びの中にある豊かな学びを発見するには・・・である。
- 同じ事実を見取っても、人によって・・・など様々な解釈があった。
- ・・・とは、どういうことだろう？
- ・・・の議論が盛り上がった。

令和5年度 1月 神戸大学附属幼稚園 研究部

グループ協議の進め方

*子どもの事実に基づいて、遊びの中の学びをとらえましょう。
*常に事実に基づいて話ができるか、確かめ合いながら協議しましょう。

(1) 各々の「学びのカード」について、確かめ合いながら協議しましょう。

① ご自身の「学びのカード」について話す。(1枚目)

| | |
|------------------|--------------------|
| 「学びのカード」 | |
| 事実 ① | ・解釈 ◎教師の意図 ② |
| 学び ③ 学びの要因 | ④ |

◎自分自身が今日の遊びの中でとらえた、子どもにとっての「学び」は何か。
◎それは具体的に、どんな「事実」が基になっているか。
◎「事実」をどのように「解釈」したか。
◎「学び」に至る要因（環境の構成や教師の援助、状況等）は何か。

*グループに同じ場面の「学びのカード」がないか確かめる。あれば、続けてその「学びのカード」について話す。

② 1枚目の「学びのカード」を基に、子どもの「学び」について話し合う。

*他の方がとらえた事実がさらにあれば挙げたり、解釈が異なるところや疑問があれば、子どもの事実に基づき、何が「学び」かを確かめる。グループ全員で協議し、共通理解した子どもの「学び」を付箋に書く。

③ 共通理解した「学び」が、どの資質・能力の方向に向かっている姿かとらえる。

*共通理解した「学び」が、どういう方向に向かっている姿のかを、別紙資料「神戸大学附属幼稚園・小学校 資質・能力の定義」「神戸大学附属幼稚園 入園から修了までのねらい一覧」に照らして考える。とらえた資質・能力名を付箋に書き、模造紙に資質・能力毎に「学び」を貼っていく。(次ページ参照)

④ 「学び」に至った要因（環境の構成や教師の援助、状況等）は何か検討する。

*共通理解した「学び」につながったと思われる学びの要因を協議し、簡潔な文章にして、付箋に書く。

※協議の中で、新たにとらえられた「学び」（資質・能力を伸ばしている姿）が出てきたら、ピンク付箋に書く。

※グループ協議の中で、気付いたことや考えたこと、話題が上がったことを赤マジックで随時模造紙に書き込む。

(2) 協議を振り返る。

遊びの中の学びを事実と解釈に分けて丁寧に見取ることや、本校園で見出している資質・能力を観点にして学びを見取ったことについて、また、グループの話題の中心になったことなどについて、簡潔にまとめ、赤マジックで書く。(提示し、他のグループと交流します。)

令和5年度

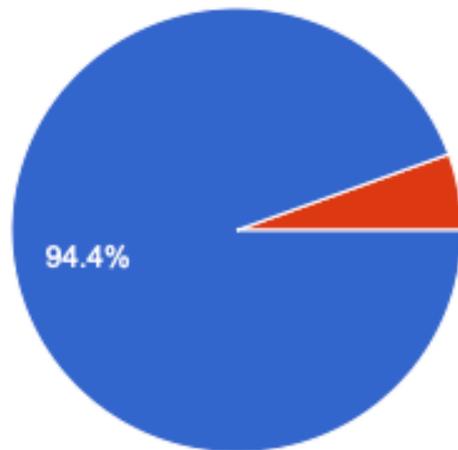
幼児教育を 考える研究会

神戸大学附属幼稚園

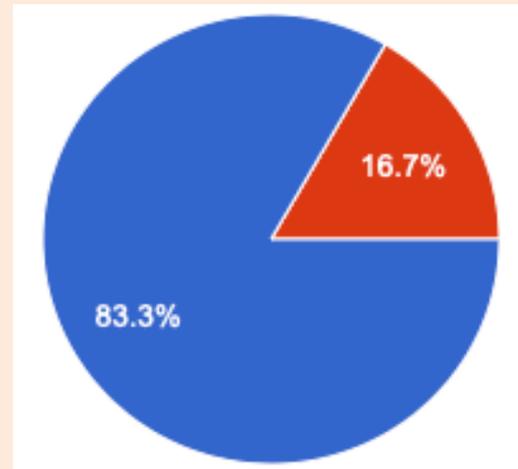
アンケート結果 一部項目を抜粋

- あてはまる
- ややあてはまる
- あまりあてはまらない
- あてはまらない

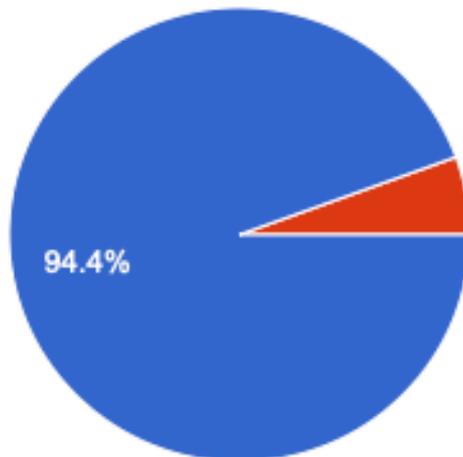
本日の研究会を通して、**事実と解釈を分けて子どもの学びをとらえること**は、意味があると感じた。



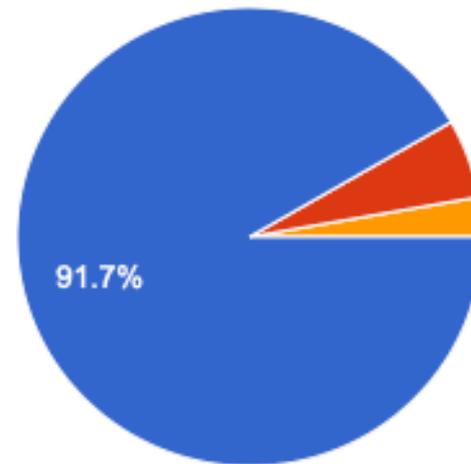
本日の研究会を通して、**資質・能力が詳細で明確になっていることは、保育の充実につながると感じた。**



本日の研究会を通して、**一つの遊びの中に、様々な資質・能力を発揮、伸長する姿を見取ることができる**と感じた。



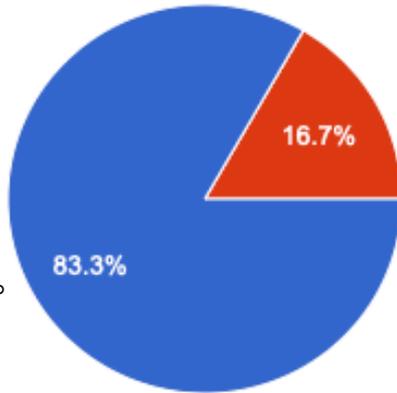
グループ協議を通して、**様々な考えに触れることで自分自身の学びにつながった。**



本日の研究会を通して、資質・能力が詳細で明確になっていることは、保育の充実につながると感じた。
「あてはまる」、「ややあてはまる」を選ばれた理由(※一部抜粋)

- 子供の姿から学びをとらえ、それがどんな資質能力につながるかがわかりやすいと思いました。
- 詳細になることで、今の幼児の育ちに合った必要な援助や環境の構成をより具体的に考える手立てとなる
- 幼児の何を支えたくて援助しているのかが分かり、そのための環境や援助がより明確になる。また、教師の意識できていなかった資質・能力があることに気づき、教師の資質向上につながり、保育の充実につながる
- あの表に合わせて子どもを見取る力がまだ弱いので、確信は持てていませんが、子どもがどのような方向に向かって育っているのかがより明確になるとともに、明確になることで、教師の援助や環境の構成などもしやすくなると思います。
- 今、幼児たちにどのような資質能力が育っているのか考えたり、話し合ったりしやすいと感じた。
- 詳細になっていた方がよりこども達の主体性を支えていける保育に見通しがもてると感じたため、
- 10の姿をより具体的に考えたり、小学校や保護者への保育の可視化、連携にも分かりやすく良いと思った。
- 資質・能力が詳細で明確になっていることは、しっかりと学びや解釈、教師の意図が見えてくると思った。
- 資質・能力が詳細、また学年ごとの教育課程と繋がって書かれていることで、より具体的に子供の学びを考えることにつながり、今日だけでも幼児理解が深まったと感じたから
- 今、何が育とうとしているのか、細かく読み取ることができるから。
- 保育記録において、どこをどう記録するかで悩むことがあるが、視点をもっておくことで課題や必要な配慮についても意識して保育することができるため
- 明確な物がないとあやふやになりやすい為。
- 具体的な言葉で示されることで保育をふりかえり、進めていきやすい
- 保育の見方や考え方を整理し、客観的に示す時によりわかりやすいと思うから。
- 資質・能力が詳細で分かりやすいので、保育のねらいをピンポイントに定められる。
- ねらいに対しての環境構成、援助配慮がより深く丁寧に設定することができる。
- その日の遊びの中の学びを、資質・能力にひも付けて考えることができる。また、一人一人が何を学んでいるのか、何を学ばせたいのかが明確になり、次の保育へと繋がっていくと考えた。
- 職員同士で何を育てたいのか、今は何が必要なのかを共通理解するうえで、詳細に分けてあるとわかりやすいと思いました。ただ覚えるのが大変なのかな?とも思いました。

3要領、指針のねらい・内容の数と比べると決して多くはない



- あてはまる
- ややあてはまる
- あまりあてはまらない
- あてはまらない

神戸大学附属幼稚園で取り組み、地域の保育者や一般の保護者、小学校の先生方にも共感してもらえたことから主張したいこと

- 資質・能力を育むという考え方になった今、子どもの学びを見取る観点も、ねらいの観点も全て資質・能力の観点に統一することが、全ての人にとって理解しやすくなると思う。
- 3つの資質・能力の大きな枠組みはそのままに、さらに詳細な資質・能力の観点から要領・指針のねらいを整理し、明確に示していくことを提案したい。
- 上記のことにより、次に示す効果があると思う。
 - 幼児教育において、さらに資質・能力の考え方が浸透する。
 - 遊びや生活の中で資質・能力が豊かに発揮・伸長されていることをよりよくわかりやすく発信しやすくなる。
 - 小学校において、資質・能力の3観点で評価しているため、小学校の教師にも、幼児教育が理解しやすくなり、幼小における子どもの学びの見取り方や指導方法等の相互理解の深化が図れる。
- 神戸大学附属幼稚園としても、地域の保育者と共に、本園において見出している資質・能力を精緻に検討し、幼児教育において育みたい資質・能力を明らかにしていく方向で教育研究を継続していきたい。
- 3要領・指針と小学校学習指導要領の用語について、用語が同じであれば同じ意味で使うようにし、幼児教育に独自のものは、別の用語に変えると幼児教育と小学校教育でのカリキュラムづくりにおいても言葉の認識によるズレを防ぎ、相互理解を促進することに資すると思う。（例えば、幼児教育における「内容」と小学校における「内容」の違い）

カリキュラム資料

神戸大学附属幼稚園ホームページ参照

こへだいがくふぞくようちえん
神戸大学附属幼稚園

〒673-0878 兵庫県明石市山下町 3-4
TEL.078-911-8288



トップページ TOP PAGE 沿革 HISTORY 教育方針 POLICY 幼稚園紹介 PROGRAM 入園案内 ENTRANCE

◆教育課程資料◆ (PDF)

→ [資質・能力の定義 \(令和5年4月現在\)](#)

→ [資質・能力の定義 \(令和3年5月現在\)](#)

(旧) [資質・能力の定義 \(令和元年12月現在\)](#)

→ [入園から修了までのねらい一覧](#)

→ [教育課程及び月の指導計画と初等教育要領との関連表](#)

→ [遊びや生活のまとまりとしての計画](#)

こへだいがくふぞくようちえん
神戸大学附属幼稚園

〒673-0878 兵庫県明石市山下町 3-4
TEL.078-911-8288

トップページ TOP PAGE 沿革 HISTORY 教育方針 POLICY 幼稚園紹介 PROGRAM 入園案内 ENTRANCE

教育方針 POLICY

教育理念
神戸大学附属幼稚園は、神戸大学の理念である「真摯・自由・協同」の精神に基づき、社会を創造する知性をもち、国際感覚にあふれた人材の育成をねらいとした教育を行い、心豊かな人づくりの推進に寄与することを基本理念とします。

教育目標
人間らしくよりよく生きるための行動の基礎を幼児自らに形成させる

※よい行動 自ら（個）が主体的に考えてよいと思う行動
他（集団）からみてもよいと考えられる行動

目指す子ども像
①基本的な生活習慣を身につけ、健全な心身をもち、自ら考え、自信をもって行動しようとする子ども
②様々な人とかわる中で、人の愛情や信頼関係を感じ、人の思いやりや考えに気づき、よりよい関係を築こうとする子ども
③様々な事象に興味・関心を抱き、豊かな感性・創造性・思考力をもってかわらうとする子ども

教育課程の特色
教育課程の編成は、教育目標に向けて、具体的な子どもの実態から把握した学びの過程を見通して、ねらいや教育内容を設定しています。

①遊びを中心とした生活の中で、子ども達が自らの興味・関心に基づいて主体的に身近な環境にかかわることができるよう、「好きな遊びの時間」を重視します。指導にあたっては、ねらいや内容が総合的に達成されるよう子ども一人ひとりの実態を把握し、一人ひとりの特性や発達に応じます。

②幼稚園と小学校との学びの連続性を見通したねらいや教育内容、教育方法を工夫し、小学校との連携を図りながら、子どもの学びを様々な観点から捉え、育みます。

③幼児期は、身体の発達が著しく、運動諸機能の調和的発達が必要な時期であることから、園の環境の中での運動的な経験を豊かにし、健全な心身が育まれることを基本とします。

④基本的な生活習慣の習得を重視し、遊びや生活を視野に入れ、自ずと身につくようにします。

⑤家庭や地域との連携を含めた子ども全体の生活を視野に入れ、家庭との連携を十分に図ります。

◆教育課程資料◆ (PDF)

→ [資質・能力の定義 \(令和5年4月現在\)](#)

→ [資質・能力の定義 \(令和3年5月現在\)](#)

(旧) [資質・能力の定義 \(令和元年12月現在\)](#)

→ [入園から修了までのねらい一覧](#)

→ [教育課程及び月の指導計画と初等教育要領との関連表](#)

→ [遊びや生活のまとまりとしての計画](#)